

十和田湖畔のまちづくりにかかわる諸団体の連携を強め、十和田湖の魅力の向上と観光需要の増大を図るため、十和田湖畔地区まちづくり協議会が設立されました。協議会の会長にこれからの取り組みに対する意気込みを伺いました。

年々観光客の減少により、かつてのにぎわいをみせていた十和田湖畔も活気を失いつつあるように感じています。

今年は、鳥インフルエンザ、岩手沿岸北部地震の影響により、多くのキャンセルが相次ぎましたが、なんとか持ち直しております。まだまだ前年度の同時期ほどの客足には戻ってはいませんが、少しでも多くの観光客にリピーターとして来ていただけるように、魅力あるご旅行となるお手伝いをさせていただきたいと考えています。

今、十和田湖畔では、閉鎖した商店が目立つ中で、環境省による休屋地区のまちなみを再生する計画が進められています。この計画は、新たな観光拠点施設の整備や景観を阻害する閉鎖した建物の取り壊し、外国語標記による看板の設置、遊歩道の整備など、観光客が湖畔の自然を満喫できるような環境を整備するものです。

これまで十和田湖畔には、幾多の詩人や歌人などの文化人が想いを寄

せてきました。そのため、新たな観光拠点施設には、自然に限らず、文化的な要素も魅力の一つとして紹介できるような機能を持たせてほしいと思います。

また、十和田湖は、県境に位置しています。広域的な視点に立ち、近隣市町村の歴史や伝統・文化、さらには食文化も取り入れ、年間を通して楽しめるような環境にしていきたいと思えます。地元住民のみならず、友人・知人などのネットワークを生かしながら、いろいろなアイデアを取り入れ、できることから段階的に取り組んでいきます。

協議会としては、今後、この湖畔地区をどのようなまちにしていきたいのか、そして、未来の子どもたちにとってどのような環境を残していくのかをテーマに継続性を持って湖畔地区の魅力を再生していきたいと思えます。「今こそ想いを一つに」地域住民の心をつなぎ、この危機を乗り越えていきます。



地域住民の心をつなぎ  
この危機を乗り越えていきたい

十和田湖畔地区まちづくり協議会  
会長 中村 秀行さん